

第9回「確かな学力育成プラン」検討委員会 議事録

◆日 時 平成29年10月23日（月曜日） 午後3時30分～午後5時00分

◆場 所 仙台市役所上杉分庁舎 12階 教育局第1会議室

◆出席委員

氏名（敬称略）	所属 職名	備考
荒井 崇	東北大学大学院教授	
板垣 信哉	宮城教育大学特任教授	委員長
大泉 晶子	仙台市PTA協議会 監事	
大草 芳江	(有) FIELD AND NETWORK 取締役	
亀倉 靖宏	仙台市立上杉山中学校長	(欠席)
今野 和賀子	東北福祉大学准教授 (前仙台市立錦ヶ丘小学校長)	副委員長
佐々木 守世	(株) ホームセレクト 代表取締役	
針生 真由美	仙台市PTA協議会 副会長	
宮本 真由巳	住吉台中学校区学校支援地域本部 SV	
杉山 勝真	仙台市教育委員会学校教育部長	(欠席)
佐藤 淳一	仙台市教育委員会学校教育部参事	(欠席)
猪股 亮文	仙台市教育委員会教育指導課長	岩田主幹代理
三塚 修	仙台市教育センター所長	(欠席)
春日 文隆	仙台市教育委員会学びの連携推進室長	

◆傍 聴 なし

◆報道関係 なし

◆配布資料

- ・ 次第 ・ 第8回議事録（資料1） ・ 確かな学力育成プラン策定スケジュール（10/23版）（資料2）
- ・ 確かな学力育成プラン2018変更点（資料3） ・ 確かな学力育成プラン2018（案）概要（資料4）
- ・ 確かな学力育成プラン2018（平成29年10月23日版）（資料5）
- ・ 中間案にかかる市民意見（パブリックコメント）の聴取について（案）（資料6）
- ・ 平成29年度全国学力・学習状況調査結果の概要について（参考）
- ・ 読売新聞記事（全国学力・学習状況調査において仙台市の結果を伝える記事）

◆会議の概要

- 1 開会
- 2 委員長挨拶
- 3 報告（事務局）
 - (1) 議事録について（資料1）
 - (2) 今後のスケジュールについて（資料2）
 - ・ 11月～12月にかけてパブリックコメントを行う。
- 4 協議事項
 - ・ 委員長より、署名は大草委員に指名。
 - (1) プラン中間案について
 - ・ (事務局) 資料3について、左側に7月3日版を掲載し、右側に整理をした。本編についても文が連なっているところは箇条書きにして、読みやすく修正した。グラフも必要なものを残した。前回から今回に向けて矢印で示した。第1章はプランの大まかな枠組みを示す形で絞った。第2章では学力をめぐる現状として社会や世界的な状況を示した。前回あった第2期仙台市教育振興基本計画は第1章に記載している。第3章は、児童生徒の現状と課題を示しており、内容は絞った形にしている。第4章が本プランの中心的な位置付けである。目標から具体的な施策がつながるように示した。この中で5番の必要とされる施策の部分について新たに項立てをした。第3章のそれぞれの中の対策というところがあり、こちらを抜き出して集約した項となっている。6番確かな学力の育成に向けての指標という新たな項目を追加した。これはプランの評価指標として付け加え

た。

資料4について、全体の概要版としてまとめた。一番上に児童生徒の現状分析、課題等を示した。そこから下に向けてポイントや目標、具体的な施策、成果指標を配している。赤の矢印は、主な課題と施策のつながりを示したところである。グレーの部分は新規事業として記載している。

資料5は本プランの本編ということで配っている。60ページほどある。目を通して意見をいただきたい。

- ・(委員長) 日程についてよろしいか。(特に意見なし)
目次についてよろしいか。(特に意見なし)
資料4について、ポイントの説明を。
- ・(事務局) 資料4は内容的には、本編を抜き出したものである。一目で全体が分かるものを作成した。ご意見等いただきたい。
- ・(委員長) 資料4はA3判1枚で公開するものか。
- ・(事務局) プラン全体を説明するときに使うものである。
- ・(荒井委員) 概要がよくまとまっている。プランを分析した上で、どのような趣旨に基づいて作成したのか、どんな点で今回改正したのか、最後に施策展開。さらに、施策の成果があったかどうか成果指標という形で示す流れは良い。
- ・(春日委員) 資料4の説明をする。本編17ページの確かな学力の図に示された学力の基本的な構成要素である「基礎的知識」「応用力」「学習意欲」、この3つの要素のそれぞれの課題等をまとめたものが、資料4の上にある3つの四角となっている。資料4の上の部分、一番左が学力を構成する基礎的知識の成果と課題、真ん中が応用力の成果と課題、3つ目に生活習慣、学習習慣も入れているが、学習意欲等の課題、この学力の基本的構成要素3つのそれぞれの経年的な部分の成果と課題を示した。「・」が成果、「▼」が課題で主なものを取り出した。例えば、一番左側の基礎的知識の成果と課題というところでは、概ね一定の割合を維持している、あるいは全体として、全国以上の部分も見られる。しかし、下位層の児童生徒の割合は全国を下回っている。中学校では国語、数学の上位層の割合が高く、下位層が逆に低く、良好である。課題として、大きなものとして、小学校の算数において下位層が増えてきていること、習得が十分ではないこと、理科の観察・技能のことなど、特に大きな課題となっている部分を出している。矢印で具体的にこの課題に向けて新プランではどんなことを考えていくか、ということを示した。例えば、小学校の算数では2本の矢印が出ており、Bの指導体制の充実のところ、内容の網掛けのないところは、今までの取組を継続してやっていくことになる。課題に対する関連した施策については網掛けとなっている、(5) 中学年算数のサポート事業を考えていく。本編で実際にどんなことをするか述べている。また、放課後等の補充学習が、なかなか取組が進んでいかないということで、人的サポートを考えながら取り組んでいく。小学校の算数についてはこの2つの新事業により、新たに手当てをしていくことを謳っている。基礎的知識の2つめの課題としては、理科を挙げている。他教科と比較して若干低く、特に観察・技能等の定着に課題がある。これを受けて赤い矢印で、Aの教育指導手法の充実のところ、(6) 小学校の理科学習の支援のための指導事例集を示したり、授業で使う学習ワークを先生方に提供したりすることによって、理科の定着を図る。特に今回大きな課題として受け止めた小学校中学年の算数と理科のことを触れている。真ん中の応用力のところでは、小学校算数の上位層が減ってきて、若干下位層が増えている傾向が見られていることが課題である。二つ目の▼算数・数学の目標値と同等以上の、いわゆる理解をしている児童生徒の割合はやや下降傾向なので、改善が必要である。今回、全国学テでは国語の表現力は良かったが、細かく見ていくと、算数・数学の表現、理科の表現に課題が見られている。国語の表現力が伸びてきているが、他教科にうまくつながっていかないことが課題である。各学校でも自分の考えをまとめるということをよくやっているが、例えば、複数の資料から分かることを自分の言葉でまとめる、あるいは複数のデータをもとにして必要となる部分を抜き出してまとめるなどの部分で課題があった。Aの(1) 確かな学力研修委員会で指導手法を提案する授業をやっており、これを活用しながら広めていきたい。具体的には昨年度、小学校国語で宮教大の児玉先生から「三角ロジック」という手法を教えていただき、AとBの関係、BとCの関係、AとCの関係をもとにして、論理構成された文章を書くということが、国語だけでなく他教科でも使えるものであった。提案授業を通して、優れた指導手法をその教科のみならず、他教科でも広げていき

たいという思いがある。また、学習意欲の課題のところでは、朝食を食べるところにおいて、育ち盛りの中学 2, 3 年生の欠食率が高く、非常に大きい問題である。望ましい生活習慣づくり等につなげていきたい。22 時以降の就寝についても全国比で小学 6 年生が高くなっていたので、生活習慣づくりが必要である。自己肯定感のことや家庭学習の割合のことなど、課題が見られた部分を改善として A から F の各論の部分で示すようにしている。以上補足する。

- (大草委員) 資料 4 はどのように使われるのか。この委員会のときだけに使うのか、パブリックコメント用なのか。
- (春日委員) 現在、特別支援教育についてもプランを作成しており、例えば教育長への説明や、新市長へ説明するとき、本編全部を説明できないので、プランの骨子、概要を説明するとき資料 4 をもとに説明していた。パブリックコメントで使うかは検討する。
- (大草委員) 全体として要点がまとまっている。成果と課題が明確に分かり、それに対するポイントと施策との関係性が見やすく分かりやすい資料という感想を持った。気になったところとしては一番上の欄、現状分析のところの応用力の成果と課題の、課題の三つ目について、複数の資料から内容を読み取り、ということ。表現力とは国語だけの話ではなく算数や理科など他教科での表現力に課題があるという話は重要だと思う。その補足説明が必要と感じた。表現力というと国語だけの話と解釈する人もいれば、すべての教科に共通するものと解釈する人もいるので、いろいろな解釈にとられると思った。国語で学んだことが他教科に展開できないということが非常に大事な問題認識だと思うので、その認識を課題として明記した方がよいと感じた。
- (大泉委員) 資料 4 は見やすく分かりやすい。
- (宮本委員) ぱっと見たときはどこから手を付けていけばよいかと思ったが、説明で分かった。大草委員が言ったことも確かで、国語だけでなく他教科にも応用できるということは付け加えるのはいいと思う。
- (針生委員) 資料 4 に関しては非常にまとまっていると思った。現状と課題に向けて今後このような展開をしていくということで、分かりやすくなっているので後ろの方は、問題はないと思う。概要を基に今後のプランの中身が発展していくと思う。
- (佐々木委員) 見やすいとは思っている。しかし、どこから目を追っていけばいいか分からなくて、17 ページの図解を見て分かったというのが本音である。できるのであれば、概要のどこかに図解を入れた上で全体のプランがあればさらに見やすくなる。左側の矢印は目が追いやすく分かりやすい。右の基礎的知識、応用力、生活習慣のところ縦に目を追ってしまい、全体の流れを知らない人がこれを見た場合、これだけの文字数なので、目の追い方がおかしくなる可能性がある。もう少し工夫があるとよい。
- (副委員長) 説明があって、上の段の基礎的知識、応用力、生活習慣の文言が実際の図のイメージとタイアップされて理解できた。それがないと、イメージしづらいというのが率直なところである。小学校算数あるいは理科で出された課題は、文言は違えども、知識理解、応用力、学習習慣のところにも見え隠れしていると思う。施策のところ、算数なら算数で追っていくと、矢印が重複することになるのでかえって見づらくなる。つながりが分かってくると目で追えるが。見やすさ分かりやすさでもう一工夫あればなおよいと思う。A の教育指導手法の充実 (6) 小学校理科学習支援のための指導事例・学習ワークについて、この指導事例、学習ワークは教員のためのものか、学習ワークは児童も使うのか、このタイトルだけ見るとイメージしづらい。授業改善や校内研修、実践指導事例、先行事例等、例えば動画を含めて参考となるアーカイブを整備していくということもあってもよいと思っている。詳しい説明を見ると、指導事例と学習ワークが繋がらないのでネーミングの問題だけかもしれないが検討してほしい。
- (委員長) 応用力の表現力と基礎的知識の理科と算数については関連していると思う。国語の表現力そのものは低くない。基本的に内容が分かれば分かるほどきちんと文章になってくる。内容がしっかり整理されればそれに伴って表現できる。根本的には算数・理科の内容理解が心配だ。それが原因だと思われる。教育学部の学生は一般に文系志向が強い。理科、算数が相対的に弱い。教員採用の段階でも検討していかなくてははいけないと思う。外国語の枠があると思うが、数学・理科の中学校の免許を持っている人の加点枠を設けることも考えないといけない。小学校の先生が算数・理科に弱いと自然と指導力も落ちる。教員採用の方針の課題ともいえる。
- (春日委員) 4 月から県費教職員が市費教職員となり、権限移譲となった。今までは市の職員であっても県

から給料を受け取る形だった。採用は仙台市で行うが、仙台市の教員でありながら県から給料を受け取るというちぐはぐの状況だった。今年の4月から県費負担教職員も全て仙台市で採用し、給料も市から出るということになった。すなわち、仙台市の考える教員像をもとにして、教員を採用する時点から市のポリシーをもとにして選べるようになった。従って、教育施策にもつながってくるので、どんな教員がほしいかということは、どういう子供を育てていきたいかと一緒なので、そういう点では、仙台市ではこういう子供を育てていきたい、こういう部分が弱いからこういう力を育てていける教員がほしいということで、採用時点からそれを表に出せるようになった。教育局全体の問題なので、何を優先順位としていくかというところは、教育局として詰めることが必要である。

- ・(委員長) ちょっと心配なところでもあるので、教員像にもとづいて、採用時点で検討することもあり得るのかなと思う。理科に関する興味・関心が薄れているので、将来的には心配だ。
- ・(荒井委員) 全国学力・学習状況調査で今回政令市の順位も発表されたと思うが、教育委員会、現場の先生方のご努力の成果で、中学校に関しては全部1位だった。一方、小学校は悪くはないが、中学校に比べると課題が見られる。小学校のいつの段階で子供たちの理解が問題となってくるのか。仙台市独自の標準学力検査で見た場合、ピンポイントで分かればそこに集中できる。算数が問題だということは分かってきたが、小学校でしっかりやれば中学校でもっと伸びると思った。小学校と中学校を比較したときに、どの時点で下がっているのか。小学校3年から6年まで上がり続けているのか、下がっているのか、全国と標準学力検査を比較することはできるのか。
- ・(春日委員) 達成率で上がっているか下がっているか、経年変化を見ることができる。
- ・(荒井委員) 達成率で下がり始めているのがどの時点か、どのくらい下がっているか分析すれば、仙台市の弱いところが分かる。小学校3~6年のどの間で落ちるか、その推移を見ると、はっきり分かると思う。プランを実施した後で分析し、対応してもよいが。
- ・(春日委員) 平成19年から仙台市標準学力検査を行っており、11年目となっている。経年的な変化も見られている。他の自治体でも独自で学力検査を行っているが、本市のように小学校3年生から中学校3年生まで、7年間丁寧に、教科も国語、算数、社会、理科、中学校では数学、英語をやっているところはあまり多くない。従って、仙台市の場合もともと、始まりは指導改善の手立てを探っていきたいということで、質問紙調査を中心に行っていた。平成15年くらいから宮城教育大学と行っていた。質問紙だけで、例えば「あなたは算数は得意ですか」、という項目で、データの算数で高得点がとれるか分からないので、平成15年くらいから質問紙調査だけでは限界がある。やはり学力検査も一緒にやることによって相関を調べることによって、どんな要因が学力とつながっていくか見ていくということで、平成19年度から始まった。本編11ページに、経年的変化を示した。本市の良さとしては、小学校3年生で未定着な部分があれば、できるだけ早い時点でそれを回復して手当てをする。そして次の小学校4年生につないでいく。小学校4年生でまた新しいつまづきがあれば、また回復していく、ということをして中学3年生までこつこつ丁寧にやっていく。新聞の報道にもあったが、今回、中学は好成绩を収めることができたが、そういった積み重ねがあったからと思っている。本編11ページの図7が、算数・数学を経年で追いかけたものである。他教科でも同じように調べて見ているが、変化が激しいのが算数・数学である。特にがくっと落ちているのが小学校5年生のときである。小学5年生というのは、小学4年生の学習内容である。小学4年生の学習内容を振り返ってみると、割合が始まったり、分数、単位当たりの量であったり、算数が苦手となる領域が始まる時期なので、これが後々の小学校5年~中学校までの算数・数学の基礎になるところなので、中学校1年生で数学が悪いから中学校1年生で回復しようではなく、小学校3年生、4年生の時点で回復させていくことが必要でないかということを11ページでは記載している。他教科でも調査しているが、特に顕著な落ち込みがあったのが算数・数学だったので取り上げた。また、領域ごとにどうかとか、観点別に小学校3年生から中学校3年生まで追いかけたときにどこが落ちているか、あるいはもともと仙台市は苦手な観点、弱みのある観点があるのか、様々な視点から標準学力検査の分析ができる。これを契機に様々な視点から見っていくと、今まで気付かなかった仙台市の子供たちの強みや弱みも見えてくると思っている。今回のプランの分析の仕方が、いい契機、刺激となって様々な視点から本市の子供たちの学力を見ていきたいと思っている。

(2) 市民意見（パブリックコメント）の聴取について

- ・（事務局）資料 6 にパブリックコメントの概要について示している。広く市民から意見をいただき、プランをよりよいものにしていく。期間は11月下旬から12月下旬を考えている。中間プランの配付、閲覧場所を資料 6 に示している。ホームページでも見られるようにしている。また、市政日より12月号でも広報する。意見の集約は郵送、FAX、電子メールで行う。

現在、特別支援教育推進プランの作成が進んでいる。パブリックコメントの期間は一緒である。いただいた意見は事務局で集約し、次回1月の会議で提示し、参考にしてプランを修正する。
- ・（荒井委員）パブリックコメント自体は重要なことだと思う。プランに関しては、地域の方に学校教育に対して支援していただくことになるので、地域の方々の意見を伺った上で必要に応じて修正していくことは必要だと思う。併せて、プランの実現のためには、現場の先生方にとっても無理のないプランであり、かつ現場の先生方のご理解をいただけるようなプランの内容にすべきかなと思っている。パブコメは11月下旬からだが、可能であれば11月からパブコメの終わりくらいまでに現場の先生方に直接伺い、20分くらい説明した上で聞いてみると、また違った視点で見て、プランが充実すると思う。このプランのデータ分析に加えて、現場の先生方の感覚で子供の状況を踏まえた上でさらに精査するとよりよいと思う。困難を抱えている学校や落ち着いていて学力も高い学校などピックアップして複数の学校から聞くとよいと思う。可能であれば、検討委員会のメンバーも参加させていただきたい。現場の先生方にヒアリングすることで、現場の先生方もプランと一緒に作ったという参加意識が向上し、プランも実施されやすくなると思うので、提案したい。
- ・（春日委員）このプランが先生一人一人のものになっていくためには、先生方の意見が反映されている形がよいと思う。可能な限り、現場の先生方のご意見を聞く機会を考えていくように検討してみた。プランの中で、確かにその通りだという部分、あるいは放課後等の補充学習というのを考えており、実際に授業をやって、つまずきがあつて居残りとなつても、ふいに生徒指導の問題があつたり、急に会議があつたり、せつかくその子のために個別指導をしようと思つてもできないという現状がある。その時に、人的サポートをすることによって、突発的なことがあつたとしても、その方にお願ひすればできるということを検討している。実現すれば先生方も喜ぶのではないかと考えている。そのような肌実感を得たいというのもあり、可能な限り考えていきたい。
- ・（佐々木委員）パブリックコメントというのは、教育委員会で行っていく中で、それ相応の意見が集まるものなのか。
- ・（春日委員）以前、読書活動推進計画を行った際、パブコメを実施し、本当に様々な意見をいただいた。全てを取り入れるわけではないが、落ちていた部分に気付かされたり、「もっと進めてほしい」という賛同を得たりした。こちらの考えを示したり、メールで返答したりすることになる。
- ・（佐々木委員）配付と閲覧場所を見ると、意識の高い方がご覧になられて意見をするというイメージを持った。意識の高い方だけでなく、多種多様な方に提供できるような配付、閲覧場所を検討すると、意外な意見が得られると思う。
- ・（事務局）パブリックコメントを実施する際、各学校に周知を図るようにする。併せて各学校の学校便りに、市政日より同様の内容を記載してもらうようにする。学校現場、保護者からご意見をいただければと考えている。
- ・（春日委員）このプランをよくよく見ると、自分づくり教育について新たにD領域で起こしている。本編の19ページ。前回のプランでは、自分づくり教育、つまりキャリア教育の部分がEの領域に入っていた。今回あえてDとして、教科学習の向こう側にあるというものとして、学校での教科の勉強が、やがては将来社会人になって、職業的に一人前になっていくときに、つながっていくもの、リンクさせていくものということで、子供たちの学習意欲も、将来のために頑張つて勉強する気持ちも高まってくる。むしろリンクさせながらやっていくとよいということを今回新たにづくつているので、企業の方にも見ていただきたい。Eの領域として、仙台市の特徴として学校支援地域本部が非常に盛んであるというところで、地域の方と触れ合つたりして自分を認められたり、地域の方の生き方を学んだりすることで、学習意欲が高まって学力につながっていくという面もあるので、そういった点からも学校支援地域本部の方、地域の方にも目を通していただきたいと思っている。閲覧場所については広げて考えていきたい。

全国学力・学習状況調査の質問紙調査において、全国より10ポイント以上高いものがたくさ

んある。その中で、地域との関わりが10ポイント以上高い。他に10ポイント以上高いものが予習・復習をするというところである。このような子供たちの良さが、今回新聞に出た結果につながっていると思う。それを市民の方にPRできるよい機会だと思っている。その点においても閲覧場所を検討したい。

- ・(副委員長) 広くパブリックコメントをとることはよいと思う。新学習指導要領の全面実施が目の前である。社会に開かれた教育課程を目指す点を踏まえつつも、この資料4と本編を全部見るのは難しいとも思う。ポイントを分かりやすく、例えば資料4を改良したものや、解説版のパンフレットのようなものがあるとよい。できれば、動画を開設して、パブリックコメントの時点で、短いものでもいいので、意見をもらうというのはどうか。家庭や地域の方との意識の共有が進み、プランの実施に向けて経過を見ながら共有することが可能になってくると思う。
教員の資質能力の向上という制度改革があった。教育委員会と大学との協議の場を持ちながら、教員の育成指標をつくるという法律の体制があったと思う。育成指標を踏まえた研修計画の策定が昨今大事になっていると思うが、それに触れるものはプランには入らないものなのか。
- ・(春日委員) 1点目については前向きに検討していきたい。2点目のことはAの教員の指導力というところで、資質が上がってこない、学力も向上しない。教育センターの研修計画とプランをうまくリンクできるような形を検討したい。
- ・(春日委員) 質問紙調査の7, 8ページ。小学校の【31】「学校の授業の予習をしていますか」というところで、網掛けが今年度の数値である。仙台市は全国より10.4ポイント上回っている。【32】「学校の授業の復習をしていますか」は、12.5ポイント上回っている。【40】「今住んでいる地域の行事に参加していますか」は、12.4ポイント上回っている。【41】「地域や社会で起きている問題や出来事に関心がありますか」は、9.5ポイント。【42】「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」は、7.9ポイント。【43】「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」は、7ポイントということで大きく上回っている。
中学校で見ると、13ページ。【33】「学校の授業の予習をしていますか」14.5ポイント、【34】「学校の授業の復習をしていますか」13.7ポイント、【42】「今住んでいる地域の行事に参加していますか」4.7ポイント、【43】「地域や社会で起きている問題や出来事に関心がありますか」7.1ポイント、【44】「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」5ポイント、【45】「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」9ポイントという具合に、家庭学習に関すること、地域との関わりの部分で非常に良好な結果となった。このあたりが仙台市の特徴で、これを生かすことで学力にもつながっていくと思っている。
- ・(委員長) 13ページ【41】「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくださいませんか」が低くなっている。
- ・(春日委員) 課題となっているところであり、ここがよくなれば仙台市はまだまだ伸びる部分でもある。多忙化ともつながっているところもあり、放課後等の補充学習等のサポート事業を考えるときに、こういった部分において先生方を手伝えないかと思っている。
- ・(荒井委員) 全般的に素晴らしい結果となっている。8ページ【44】「地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがありますか」というところで、子供たちは地域の行事に参加しているけれど、大人は勉強を教えたり一緒に遊んだりしないようである。小学校は6.7ポイント、中学校は2.8ポイント全国より低い。学校支援地域本部などで学校を支援しているので、もうちょっと伸びしろがあるという感じではある。
- ・(春日委員) 8ページ【44】に関しては、学校支援地域本部の活動も盛んであることから、もっとぐっと上がるという期待はあった。一緒にやっけても勉強やスポーツを教えてもらっているという意識はないのか、受け止め方として子供たちが慣れていないことを感じた。
- ・(委員長) 8ページの【38】「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」も心配だ。
- ・(春日委員) ご指摘の部分を課題として取り上げており、この部分を高めていくことを各学校に流している。
- ・(佐々木委員) イメージと実際は違い、素晴らしいと感じている。仙台市と全国という比較となると、47都道府県の中での比較ということになるが、市町村の規模によっては偏った結果が出る可能性があると思う。企業でいうところの同規模ライバルのような存在、同じ政令指定都市の中での比較もあると、もっといい結果あるいは課題が出るかもしれない。また、良い結果が突出している市

町村があれば、どういう方法で行っているか聞くこともできる。

- ・(春日委員) 事務局でも、秋田県との比較や、同じ政令指定都市で人口規模、環境が同じで、成績がよいところとの比較をして、似ている部分、向こうがよくてこちらが落ちているところの分析をしている。

(3) その他

- ・(針生委員) 資料を読むと、地域・保護者・学校の地域連携がまとまって、周りの子供たちをみんなで見守る体制ができ、先生が忙しいということがあっても、地域の方たちがいくらでも学校に足を向けてサポートできる体制が、コツコツでもよいので、できあがっていけば、中心にいる子供たちの環境が確立していくと思う。地域の温度差はあると思うが、地域も学校も守りながら、保護者も一緒に顔を出しながら、開かれた環境になっていくとよい。パブリックコメントが始まるが、策定の展開、新規で行うものが十分に確立していくと、この会議も有意義だったと思う。
- ・(宮本委員) 質問紙の中で、「地域の行事に参加している」「ボランティアに参加している」という数値がすごく高く、学校支援地域本部の活動をしている私としてはとてもうれしい結果だと思う。子供たちが地域と接することは、ある程度の年齢にならないとなかなかできないことで、それまでは面倒をみてもらう立場なので、小学校の高学年くらいから中学校にかけて、自分たちが役に立っているという意識を持つことは大切だと思う。数値が高かったのはうれしい。パブリックコメントは、委員をやっていると見えなくなってしまうこともあるので、外から見た人がどのように思うのか、いろいろな方から意見をいただければよいと思う。学校支援地域本部に関わる場所があるので、同じ活動をしている人にも見てもらいたい。
- ・(大草委員) この会をとおして、教育委員会や学校現場、地域の方が一生懸命教育をしていることに明るい希望を持った。力を合わせて行うことが、これからの教育だと感じた。今後のプランがよりよいものになることを願っている。一方、自分が心配していることとしては、NPOの活動で大学生の育成を10年くらいやっているが、最近精神的に自立していない大学生が増えている。本来であれば精神的に自立して、自分の足で立って初めて、社会に価値を提供できる一人前の人間になると思う。教育の一番難しいところだと思うが、本人の主体性も育まないといけないし、周りもサポートしないとけない、しかし、サポートしすぎると子供の自主性を奪って精神的な自立を妨げてしまう。精神的に自立していない大学生を支えようとして、周囲が疲弊している現状に、我々も非常に悩んでいるし大学の教員や企業経営者からも同じ悩みを聞くケースが増えている。未成年段階で周りもサポートして育むけれど、子供の自立をしっかりと促すことを両立させていくことが教育の大切なところだと思うので、そういった観点をこのプランでも欠かさないでほしい。その観点から気になったところで、「自分で計画を立てて勉強していますか」の項目で、小学校は70%だが、中学生は下がって60%を切っている。全国より10ポイント近く高いが、なぜ中学生で自分で計画を立てられなくなるのか、心配なところだ。周りが手取り足取りやってくれないと不安でできないのか、自己肯定感や自信の低さと関係している結果に見える。主体性や精神的な自立ということが教育の根本だと思う。
- ・(大泉委員) 参加させていただき、私自身勉強になった。ここまでプランができて良かった。質問紙について、学力のポイントは高いが、「将来の夢はありますか」「算数が好きですか」「将来、勉強が役に立ちますか」というところがマイナスポイントで、テストの点数は上がっているけど矛盾があり心配だ。学力の平均点は上がっているが、細かく見ると、真ん中の層が少なく、学力の高い子が平均を押し上げているところがあるので、今回の全国学力テストではどうだったのか、細かく提出していただければもう少し詳しく分かると思う。パブリックコメントについては、動画という形で19ページの色の付いているところを見せると、興味の湧く方もいると思うので、より広く見ていただき、たくさんの意見を聞きながら、修正できるといい。また、現場の先生のご意見を聞くのも大切だと思う。私たちは先生のように子供たちと接しているわけではないので、実際に現場で子供たちと接する先生のご意見も確かに聞いた上で、施策ができるとよりいいプランになると思う。
- ・(荒井委員) 教育委員会で、意見をうまく取り入れながら、また資料も見やすくなり、素晴らしいプランになったと思う。パブリックコメントで先生方からいろんな意見をいただき、さらによりよいものになればいいと思う。
- ・(副委員長) いよいよパブリックコメントの段階にまでプランができてきたことを共に喜びたい。これが

ぜひ、新しい教育課程が目指す理念の、あるいは仙台市教育振興基本計画に則った上での、仙台人として未来をつくっていく子供たちが目指していく理念の共有、広報活動の充実という方向につながってほしいと思っている。以前の学力育成に向けての指標にはなかった、「自分づくり教育の充実」が大きく取り上げられているところが、いかにも仙台式さがあふれていると思う。学校支援地域本部の方々のご苦勞などがあつてのこれまでの歩みでもある。これを次の世代、社会に開かれた教育課程を共につくっていく、そして子供たち自身が職業を通じて未来の社会を自分たちでつくっていくという視点が盛り込まれているような、そのような自分づくり教育の充実を含んだ指標となって広がっていければ、よりよいのではないかと思った。

- ・(委員長) 新聞で政令指定都市の中で、学力という点で仙台市が評価されているのは喜ばしいことだが、政令指定都市ならではの新たな問題というのは、我々にとってあまり経験していない問題だと思う。仙台が抱えている問題の多くは、他の政令指定都市ではすでに経験していると思うので、そういうところからも学ぶとよい。他の政令指定都市からも十分見習い、情報を得るとよい。

5 事務連絡(事務局)

- ・議事録はメールリストで後日送信する。
- ・次回の連絡(次回:第10回 平成30年1月10日(水)午後4時30分～ 教育局第1会議室)

6 閉会

平成30年1月10日

署名委員

大草芳江(ま) (ま)